

## レスポンシブル・ケアマネジメント

レスポンシブル・ケア(RC: Responsible Care)活動とは、化学物質の開発から製造、物流、使用、最終消費を経て廃棄・リサイクルに至る全ての過程において、自主的に「環境・健康・安全」を確保し、活動の成果を公表し社会との対話・コミュニケーションを行う活動で、60を超える国・地域の化学企業が取り組んでいます。日本では1995年に社団法人日本化学工業協会にて日本レスポンシブル・ケア協議会が設立され、当社も設立当時より加盟しています。

また、2014年に改定されたレスポンシブル・ケア世界憲章にも署名し、RC活動への取り組みを強化しています。



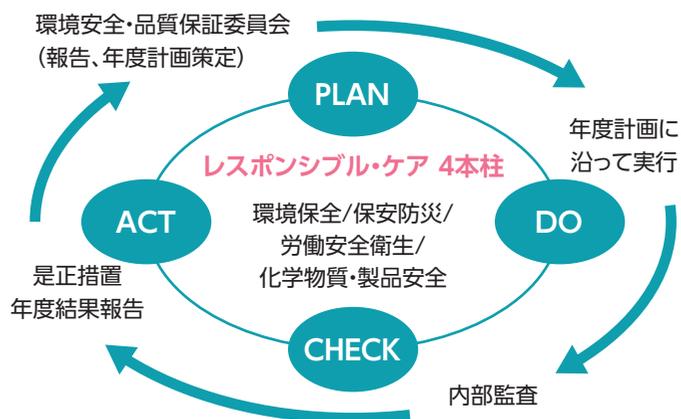
## 日産化学RCマネジメントシステム

当社は、RC中期計画を達成するため、全社にISO14001\*を基本としたRCマネジメントシステムを構築し、PDCA(Plan、Do、Check、Act)による目標管理、継続的改善を行っています。

これらの活動を推進する組織として環境安全・品質保証部担当役員を委員長とする環境安全・品質保証委員会を年1回定期的に開催し、各箇所の年度活動結果、会社全体の活動総括および次年度のRC目標を討議しています。

討議の内容は、経営会議に報告されます。次年度の目標は経営会議での承認を経て、取締役会で決議されます。

\* 環境マネジメントシステムの国際規格、全工場でISO14001の第三者認証を取得



▲環境安全・品質保証委員会:環境安全・品質保証部担当役員(委員長)、経営企画部長、生産技術部長、人事部長、購買部長、全事業部長、新事業企画部長、環境安全・品質保証部長、全工場長、全研究所長。年1回開催。

## RCに関する基本方針

当社は、事業活動のあらゆるステージにおいて、「環境・健康・安全」に関して優先的に取り組む事項をRCに関する基本方針に定め、関係会社を含むグループ全体に周知徹底を図っています。

2016年12月16日に制定された「環境・健康・安全に関する日本化学工業協会基本方針」に則り、当社のRC基本方針を2018年4月に改定しました。

### RC基本方針

- (1) 経営層自ら強いリーダーシップを発揮し、国内外での環境・安全・健康の確保に努める。
- (2) 製品の開発から廃棄に至るまでの全ライフサイクルにわたり環境・安全・健康のパフォーマンスや、施設・プロセス・技術に関わるセキュリティの継続的改善に努め、その成果を社会に公表する。
- (3) 省資源及び省エネルギーを一層推進し、廃棄物の削減及びその有効活用に努める。
- (4) サプライチェーンにわたって化学品の安全性とプロダクト・スチュワードシップの継続的改善を促進することにより、環境と人々の健康・安全を守る。
- (5) 化学品のライフサイクルにわたる健全な科学に基づくリスクベースの化学品管理の法規策定に関わる取り組みに参画し、ベストプラクティスを実践することにより、化学品管理システムを強化する。
- (6) ビジネスパートナーに対し化学品の取り扱いが安全に管理できるよう働きかける。
- (7) 製品及び事業活動が環境・安全・健康に及ぼす影響に関して、行政当局及び市民の関心に留意し、正しい理解が得られるよう必要な情報を開示し、対話に努める。
- (8) 環境・安全・健康に関する活動に対するステークホルダーの期待に一層応えるため、対話活動を更に拡大する。
- (9) 革新的技術やその他のソリューションを開発・提供することにより社会の持続的発展に貢献する。

## RC監査

RC監査とは、レスポンシブル・ケア監査指針に基づき環境安全・品質保証部が、工場、研究所、関連会社でのRC活動を確認する活動です。各箇所が行う内部監査やパトロールに加え、各箇所のRC活動が適切に実施され、PDCAサイクルが着実に回っているか、また環境・安全・健康に関わるコンプライアンスに関してチェックをしています。環境安全・品質保証部は、このRC監査において、環境・安全・健康に係る顕在化した問題、または潜在的なリスクがあれば、明確に示して改善を促しています。2017年度は工場、研究所、関連会社に対してのべ43回のRC監査を実施しました。

## レスポンシブル・ケア中期計画(2016-2021年度)の推進

レスポンシブル・ケアコード	中期計画(2016-2021年度)	2017年度計画	
環境保全・ 気候変動対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・温室効果ガス（GHG）排出量削減、原単位改善 GHG排出量:中計期間（2016～2021年度）の総排出量を、前中計期間（2010～2015年度）比10万トン-CO<sub>2</sub>削減 原単位*1:2021年度までに2011年度比20%改善 *1 排出量/売上高</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・メラミン等での燃料転換による、さらなるGHG排出量の削減</li> <li>・硝酸プラントより発生するN<sub>2</sub>Oの削減</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・エネルギー原単位*2改善 2021年度までに2011年度比20%改善 *2 エネルギー使用量/売上高</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・設備の能力向上、老朽化設備更新等による省エネルギー化</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・産業廃棄物排出量削減</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リサイクル率の目標設定</li> </ul>	☆☆☆
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・CSRサプライチェーン・マネジメント（グリーン調達）システムの確立</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・EHS*3監査の継続実施</li> <li>・サプライチェーンのCSR対応の確認</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生物多様性保全への取り組み強化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生物多様性行動指針に基づく活動の推進</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境配慮型製品の開発・販売促進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境配慮型製品の開発と調査継続</li> </ul>	
保安防災	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安全文化醸成と保安力強化</li> <li>・製造、工事および研究の事前評価システムの有効性向上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・火災・爆発・漏洩事故ゼロ</li> <li>・事前評価指針の見直し、改定</li> </ul>	☆☆☆
労働安全衛生	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ISO45001を基盤とした労働安全衛生マネジメントシステムの確立</li> <li>・休業災害ゼロの達成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安全への設備投資の実行（350百万円/3年）</li> <li>・協力会社への労働安全状況の確認、指導</li> </ul>	☆☆
化学物質・製品安全	<ul style="list-style-type: none"> <li>・化学物質のライフサイクルを通じたリスクベースの管理推進</li> <li>・人の健康や環境に及ぼす化学物質の影響に関する先端的研究への貢献</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リスク評価の運用の確認</li> <li>・化学物質安全性要約書の公開継続</li> </ul>	☆☆☆

\*3 環境・健康・安全

達成評価	参照先	中期計画の見直し (下線は変更)	2018年度計画
<ul style="list-style-type: none"> <li>・メラミン加熱炉での燃料転換および硝酸プラントのダウンサイジングにより発生するN<sub>2</sub>Oの削減</li> <li>GHG排出量:2016年度比5.3万トン-CO<sub>2</sub>削減(2011年度比15%削減)</li> <li>原単位:2011年度比36%改善</li> </ul>	P55	<ul style="list-style-type: none"> <li>・温室効果ガス (GHG) 排出量削減、原単位改善</li> <li><u>GHG排出量:2021年度までに2011年度比20%削減</u></li> <li><u>原単位:2021年度までに2011年度比40%改善</u></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アンモニア補助ボイラー燃料転換によるGHG排出量削減</li> <li>・チラー更新によるフロン排出抑制</li> <li>・GHG排出量:2011年度比16%削減</li> <li>原単位:2011年度比37%改善</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・エネルギー原単位2011年度比24%改善</li> </ul>	P56	<ul style="list-style-type: none"> <li>・エネルギー原単位改善</li> <li><u>2021年度までに2011年度比30%改善</u></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・設備の能力向上、老朽化設備更新等による省エネルギー化継続</li> <li>・エネルギー原単位2011年度比25%改善</li> <li>・本社を省エネルギー性能の高いビル(PAL・ERR「段階3」)へ移転</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・リサイクル率 97.9%</li> </ul>	P58	<ul style="list-style-type: none"> <li>・産業廃棄物排出量削減</li> <li>・<u>2021年度までにリサイクル率99.5%以上</u></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リサイクル率目標 98.5%</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・重要原料委託先等のEHS監査を実施</li> <li>・重要原料委託先等のCSRアセスメント開始</li> </ul>	P67	<ul style="list-style-type: none"> <li>・CSRサプライチェーン・マネジメント(グリーン調達)システムの確立</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・EHS監査の拡大</li> <li>・サプライチェーンへのCSRアセスメントの運用拡大</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・バイオパークの運営</li> <li>・NPO法人への支援、ダイアログ</li> <li>・藤前干潟クリーン大作戦参加</li> <li>・ヒメコマツ系統保存サポーター等の生物多様性保全へ取り組み継続</li> </ul>	P59	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生物多様性保全への取り組み強化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生物多様性行動指針に基づく活動の推進</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・新規環境配慮型製品の開発推進(ビーナス®オイルクリーン)</li> </ul>	P25	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境配慮型製品の開発・販売促進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新規環境配慮型製品の開発推進継続</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・火災・爆発・漏洩事故ゼロ</li> <li>・事前評価指針の見直し実施</li> <li>・安全文化評価質問票の改定</li> </ul>	P61	<ul style="list-style-type: none"> <li>・火災・爆発・漏洩事故ゼロ</li> <li>・安全文化醸成と保安力強化</li> <li>・製造、工事および研究の事前評価システムの有効性向上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・火災・爆発・漏洩事故ゼロ</li> <li>・事前評価指針の改定</li> <li>・安全文化評価(改定版)の実施と解析</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・休業災害1件、派遣等協力会社員が被災したケース2件</li> <li>・協力会社への労働安全状況の確認、指導実施</li> </ul>	P62	<ul style="list-style-type: none"> <li>・労働安全衛生マネジメントシステムの見直し</li> <li>・休業災害ゼロの達成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安全への設備投資の実行(350百万円/3年、最終年)</li> <li>・休業災害ゼロ</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前評価によるリスク評価の運用を確認</li> <li>・アドブルーの安全性要約書公開</li> <li>・WET試験の検討開始</li> </ul>	P63	<ul style="list-style-type: none"> <li>・化学物質のライフサイクルを通じたリスクベースの管理推進</li> <li>・人の健康や環境に及ぼす化学物質の影響に関する先端的研究への貢献</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・化学物質安全性要約書の公開継続</li> <li>・事前評価によるリスク評価の継続</li> <li>・WET試験の検討継続</li> </ul>